

主な内容

- 特集——患者サポートセンターの紹介
- トピックス——東日本大震災における本法人の取組に対し
釜石市から感謝状が贈られました
- 募金状況報告
- 表紙写真：医学部白衣授与式（関連記事p.4）

岩手医科大学医学部白衣授与式



特集

患者サポートセンターの紹介

患者サービスの向上及び地域医療連携の更なる推進を図るため、附属病院と内丸メディカルセンターに患者サポートセンターを設置しました。患者さんの相談窓口を一元化し、他施設からの患者紹介窓口や患者さんの入退院のサポートを行っています。本稿では患者サポートセンターの組織・役割などについてご紹介します。

■ 組織紹介

患者サポートセンターは、附属病院の移転を機に「地域医療連携センター」と「医療福祉相談室」が一体となった新たな組織で、附属病院と内丸メディカルセンター（MC）に設置されました。入退院支援部門、地域医療連携部門、医療福祉相談部門を3つの大きな柱として、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務員が連携して患者サービス向上に努めております。

<主な役割>

- 入退院支援
- 地域医療連携センター
- 医療福祉相談
- がん相談支援センター



◆ スタッフ紹介

センター長 森野 禎浩 教授（内科学講座循環器内科分野）
副センター長 小原 航 教授（泌尿器科学講座）
房崎 哲也 特任准教授（内科学講座循環器内科分野）

スタッフ構成

- 看護師…22名（附属病院18名／内丸MC4名）
 - 医療ソーシャルワーカー…11名（附属病院10名／内丸MC1名）
 - 難病診療連携コーディネーター…2名（附属病院）
 - 事務員…16名（附属病院10名／内丸MC6名）
- （入院前面談では、薬剤師、栄養士の方とも連携し支援を行っています。）



■ 患者サポートセンターの業務

◆ 入退院支援に関すること

- 多職種による入院前面談
- 入院受付（手続き）
- ベッドコントロール
- 転入院患者の調整
- 退院支援
- 転院支援に関連した他病院との連携
- 在宅療養支援に関連したケアマネージャー、訪問看護師との連携 等

◆ 地域連携に関すること

- 患者紹介の受付窓口（新患）
- セカンドオピニオン
- 返書管理
- コールセンター対応
- 地域連携パス運用 等

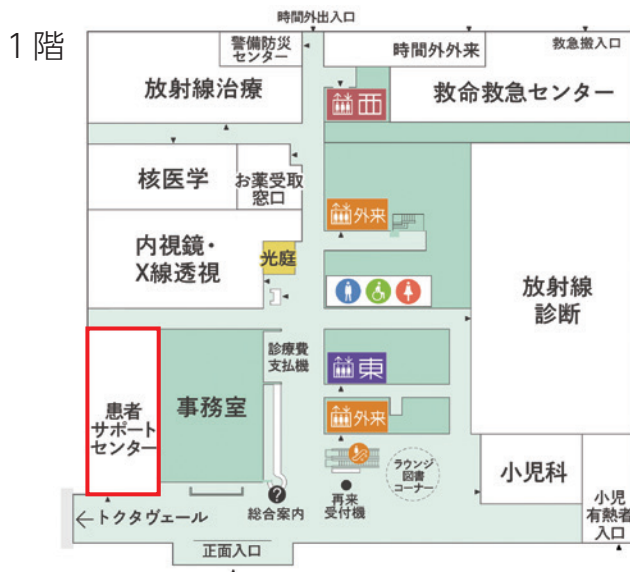
◆ 医療福祉相談に関すること

- 患者相談全般（療養に伴い生じる社会的・経済的・心理的問題等の調整援助）
- 各種専門相談（がん、難病、HIV / AIDS、認知症等）
- 苦情相談 等

■ 施設の案内

患者サポートセンターは、附属病院1階と内丸メディカルセンター外来棟3階に設置されています。場所とお問い合わせ先は以下のとおりです。

◆ 附属病院



【お問い合わせ】 附属病院代表：019-613-7111 / ダイヤルイン：019-611-8007 ※続いて以下の内線を入力
 (入院受付：3147、医療福祉相談：4122/4123、ベッドコントロール：4141、退院支援：4142、紹介・地域連携：4151)

◆ 内丸メディカルセンター



【お問い合わせ】 内丸MC代表：019-613-6111 / ダイヤルイン：019-611-8006 ※続いて以下の内線を入力
 (紹介・地域連携：2138、医療福祉相談：2390、入院説明：2391、入院前面談等：2392)

■ おわりに

患者サポートセンターでは多職種が多岐に渡る業務を行っており、その多くが院外および院内との連携を要するもので円滑な連携が重要となっております。現段階ではまだまだ人員体制が整わないため引き続き各部門でご対応いただくこともございますが、患者サービスの向上と地域医療連携の推進を図るため、皆様との連携を密にし全員で取り組んで参りますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

日本私立医科大学協会の理事長会 が附属病院で開催されました

11月6日（水）、附属病院において、一般社団法人日本私立医科大学協会の理事長会が開催されました。本会議は例年12月東京開催のところ、当理事長会小川秀興会長（順天堂理事長）が新病院を開院したばかりの本学での開催を望まれたことによるものです。

当日は会議に先立ち、附属病院の見学会が行われ、20名の参加者が2つのグループに分かれ、緩和ケア病棟、特定集中治療室、放射線機器、高度救命救急センター、トクタヴェール等を見学しました。

参加者からは新病院の特徴や放射線機器など最先端の医療機器について数多くの質問があり、担当者の説明に熱心に耳を傾けました。



矢巾新病院10階の緩和ケア病棟ラウンジの見学

医学部白衣授与式が挙行されました

11月7日（木）、大堀記念講堂において、医学部第4学年127名を対象とした白衣授与式が行われました。この式は、臨床実習においてスチューデント・ドクターとして臨床の場に第一歩を踏み出す学生に白衣を授与することで、医師としての心構えをする節目の式典です。

祖父江学長は「医療の現場は真剣勝負です。多職種と連携し、ONE TEAMで医療に臨んでほしい」と式辞を述べ、佐々木医学部長は「医療人として高い倫理観をもって実習に臨んでほしい」と激励しました。

白衣を授与された学生たちは、全員で「ヒポクラテスの誓詞」の九か条を唱和し、11月から始まる臨床実習に向けて医師の道を歩む決意を新たにしました。



第45回盛岡地区病院対抗球技大会が 開催されました

11月10日（日）、盛岡市渋民運動公園において、盛岡地区20病院による第45回盛岡地区病院対抗球技大会が開催され、本学はバレーボール、卓球、野球の3種目に参加しました。

本学チームはバレーボールで優勝、卓球、野球は惜しくも予選敗退でした。会場には、多数の教職員が応援に駆けつけ、熱戦を繰り広げる選手たちに声援を送っていました。



バレーボールチーム



バレーボール 試合中の様子



卓球チーム

第52回動物慰霊祭が行われました

11月11日(月)、大堀記念講堂において、第52回動物慰霊祭が執り行われ、教職員、医・歯・薬学部 of 学生合わせて約300名が参列しました。

式では、昨年度実験に供された動物に対する黙祷の後、祖父江学長並びに歯学部2年の一條裕太さんから慰霊の言葉が捧げられました。続いて、参列者による献花が行われ、本学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に感謝するとともに霊が安らかならんことを祈りました。



慰霊の言葉 (歯学部2年 一條さん)

感染対策講習会が行われました

感染対策講習会が、11月18日(月)から7回(録画映像による開催を含む)にわたって矢巾キャンパス大堀記念講堂で行われ、教職員約800名(延人数)が参加しました。

講習会では、本学附属病院の感染症コンサルタントの青木眞先生を講師に迎え「感染症診療の原則」と題した講演が行われました。

参加者は、感染症診療上で軸となる4つの観点を学び、感染症の有無にかかる有用な指標例などについて理解を深めました。



感染症コンサルタント 青木先生

長澤泰東京大学名誉教授とフィンランドの設計事務所JKMM Architects社が附属病院を見学に来ました

11月22日(金)、長澤泰東京大学名誉教授とフィンランドの設計事務所JKMM Architects社のデザイナー2名が附属病院の見学に来ました。

長澤名誉教授は医療福祉関連の設計・建設分野の研究・実務の他、インテリアや感染管理・物品供給などの多岐にわたる病院施設研究分野の第一人者です。JKMM Architects社は医療施設や教育施設を得意とするフィンランドを代表する設計事務所です。

今回の見学は、附属病院の設計監理を担当した日建設・清水建設設計監理共同体の仲介により実現。本学は、附属病院正面にフィンランド国旗を掲揚し歓迎しました。当日は、日本最先端の設計に触れ充実した見学となったようです。



左から2人目が長澤名誉教授、手前の女性2人がJKMM Architects社からの見学者

東日本大震災における本法人の取組に対し釜石市から感謝状が贈られました

11月28日(木)、釜石市の窪田優一副市長が本法人を表敬訪問し、東日本大震災における本法人の取り組みに対する感謝状が贈られました。

窪田副市長からは、震災時の迅速かつ的確な医療支援及び心のケアなどの継続的な支援に対し、感謝の言葉をいただきました。小川理事長は「今後も大学全体で使命感をもって、被災地支援に取り組んでまいります」と抱負を語りました。



左から：窪田副市長、小川理事長、祖父江学長、高橋事務局長



薬科学講座創薬有機化学分野の田村 理 准教授が第66回日本生薬学会において、優秀発表賞を受賞しました

この度、令和元年9月22日から23日まで北里大学（東京）で開催された第66回日本生薬学会で口頭発表した演題「血管新生阻害活性を示す海洋真菌由来新規ブテノライド」が優秀発表賞を受賞しました。

血管新生は、固形がんの増大、浸潤、転移に重要な役割を果たす一方で、血管網の完成した正常組織には特に必要ではないため、副作用の少ない新規抗がん剤開発の有望な標的と考えられます。そこで我々は、血管新生の鍵となる血管内皮細胞に対して選択的な生育阻害作用を示す化合物を探索し、海洋真菌の培養上清よりブテノライドに分類される化合物を新規活性物質として単離しました。しかしながら、本活性化合物の化学構造を完全には決定できなかったため、構造決定と構造活性相関を目的に、想定される全32種の異性体の人工的な化学合成に着手しています。今回の発表では、合成ルートの確立と実際に合成を達成した12種の異性体の活性について報告しましたが、いまだ天然物と合致する異性体は見出せておらず、受賞を励みに引き続き検討を重ねて参りたいと考えております。
(文責：田村 理)



大学院薬学研究科1年生の佐藤圭悟さんが第58回日本薬学会東北支部大会において、優秀ポスター賞を受賞しました

この度、大学院薬学研究科1年生の佐藤圭悟さんが、令和元年10月20日に東北大学（仙台）で開催された第58回日本薬学会東北支部大会で演題「ホウ素系試薬を用いた緩和な新規N-アルキル化法の開発」を発表し、優秀ポスター賞を受賞しました。

含窒素化合物は、医薬品や化粧品、香料、化学材料など様々な産業界で見出される重要な化合物群であり、窒素原子にアルキル基を導入する方法すなわちN-アルキル化法は、それらの合成法として根幹を為すものと言えます。しかしながら、既存の方法が必ずしも適用できるとは限らないことから、新たなN-アルキル化法の開発は継続していかなければならないテーマです。今回の発表では、導入するアルキル基のソースとしてカルボン酸を選択し、還元剤としてホウ素系試薬を作用させることで、N-アルキル化を実現する新たな方法を見出し、それらの適用例や既存法と比較して有用な点などについて報告しました。

今回は、東北大生以外では唯一の受賞者ということもありプレッシャーもひとしおかと思いますが、この栄誉を励みにさらに研鑽を積んで、立派な研究者へと成長することを期待しています。



表彰される佐藤さん（写真右）

(文責：田村 理)

理事会報告（10月定例－10月28日開催）

1. 教員の人事について

医学部小児科学講座 准教授

石川 健（前 同講座 講師）

歯学部補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野 准教授

田邊 憲昌（前 同講座 特任講師）

歯学部補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野 准教授
野村 太郎（前 同講座 特任講師）

（発令年月日 2019年11月1日付）

名誉学長 小野 繁 先生の逝去

岩手医科大学名誉学長の小野繁殿におかれましては、令和元年11月6日(水)午後3時25分に盛岡市内の病院にて逝去されました。享年92でした。

小野先生は昭和3年7月に山形県新庄市でお生まれになり、昭和27年に本学医学部を卒業され、昭和29年10月に本学生化学講座の助手に任用されました。その後、本学生化学講座の教授として日々教育・研究に奔走される一方、学内の要職を歴任。

平成8年1月に第8代学長に就任され、大学の発展にご尽力されました。

ここに生前の多大なるご功績を称え、謹んでご冥福をお祈りいたします。

なお、葬儀、お別れ会は、ご遺族及び関係者により既に行われています。



【略 歴】

| | | | |
|------------|-------------------|---------|-------------|
| 昭和3年7月11日生 | 山形県新庄市出身 | 昭和63年4月 | 岩手医科大学 医学部長 |
| 昭和27年3月 | 岩手医科大学 医学部 卒業 | 平成4年1月 | 岩手医科大学 副学長 |
| 昭和29年10月 | 岩手医科大学 助手(生化学講座) | 平成8年1月 | 岩手医科大学 学長 |
| 昭和32年10月 | 医学博士 | 平成16年8月 | 岩手医科大学 名誉学長 |
| 昭和32年10月 | 岩手医科大学 講師(生化学講座) | | |
| 昭和35年1月 | 岩手医科大学 助教授(生化学講座) | | |
| 昭和51年2月 | 岩手医科大学 教授(生化学講座) | | |
| 昭和60年6月 | 岩手医科大学 図書館長 | | |

【受 章】

| | |
|---------|-----------|
| 平成16年5月 | 岩手県勢功労者顕彰 |
| 平成17年4月 | 瑞宝中綬章 |

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第31回目の御芳名紹介です。(令和元年9月1日～令和元年10月31日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●個人 (13件)

| | |
|-------------|-------------|
| <1,000,000> | 田淵 真彦 (医51) |
| 庄子 忠良 (父母) | 田淵 剛 (医54) |
| <200,000> | 小林 圭子 (歯31) |
| 西田 陽 (父母) | 枝 幸基 (父母) |
| <10,000> | 和田 博泰 (医11) |
| 佐藤 瑛宥 (一般) | 及川 理 (歯10) |
| 館山 淳子 (父母) | 勝又 純孝 (父母) |
| <ご芳名のみ> | |
| 田淵 慶彦 (医18) | |
| 高橋 正樹 (医28) | |

| 区 分 | 申込件数 | 寄付金額 (円) |
|---------|-------|---------------|
| 圭 陵 会 | 926 | 593,115,089 |
| 在学生ご父母 | 775 | 409,245,000 |
| 役員・名誉教授 | 87 | 112,810,000 |
| 教 職 員 | 221 | 32,492,000 |
| 一 般 | 104 | 32,415,010 |
| 法 人・団 体 | 325 | 968,774,000 |
| 合 計 | 2,438 | 2,148,851,099 |

(令和元年10月31日現在)

お知らせ

まちの編集室が発行する「てくり第28号」に本学1号館が紹介されました

伝えたい、残したい、盛岡の「ふだん」を綴る本として発行を重ねる「てくり」。今回は変わりゆく盛岡の街並みにある変わらないものをテーマに市内を探訪しています。本学1号館は盛岡のランドマークのひとつとして紹介されています。表紙は本学OGの佐藤典子さんと学部生の里香さん親子です。お求めは tekuri.net のご注文フォームまたは fax.019-652-1858 まで。



発行 2019年11月29日 / 定価 600円 (税別)

齋野 朝幸
presents

くるみ割り人形



皆さん。くるみ割り人形って知っていますか？英語では「The Nutcracker」といい、文字通り、くるみを割るために使う道具のことです。ドイツの民芸品として有名で、ひげを生やして鮮やかな色の制服を着た兵隊姿のものが多いです。

クリスマスシーズンになると、クリスマスツリーの根元にくるみ割り人形を飾ったり、プレゼントを飾ったりすることが欧米では一般的なようです。僕がくるみ割り人形を集めるようになったのも、留学先のアメリカでの影響です。研究室の技術員の方が、親家でクリスマスやサンクスギビングのことをいろいろと教えてくれました。ちょうど子供が4歳と7歳だったので子供達に他国のいろんな文化について話してくれたことが背景にあると思います。提示している物は、集めた物の一部です(写真1)。結構あるなど今更ながらに思います(笑)。

使い方は簡単で、あごの部分にくるみを入れて、後ろのレバーを押して殻を割ります。では、殻を割ってみましょう!と言いたいところですが、実際のクルミはこの人形で割ることができません。欧米のクルミとは種類が違って日本のものは殻が硬いからです。無理に割ろうとすると、人形そのものが壊れてしまう危険があります。気をつけてください。

くるみ割り人形で有名な工房は、シュタインバッハ (Steinbach) 工房やクリスチャン・ウルブリヒト (Christian Ulbricht) 工房の物が有名だと思います。必ず台座の裏を確認してください。きちんとした工房のものはシールや印字があると思います。アメリカの専門店で聞いたところによると、台座の下に制作者のサインの入っているものは価値が高いようです(写真2)。大きなものから、ミニチュアまでいろいろとありますが、最近ではナットクラッカー自体大きくて場所をとるので、クリスマスツリーに飾れるオーナメントを集めるようになりました(写真3)。かわいらしいものが多いですよ。一度ホームページをご覧ください。

シュタインバッハ : <https://www.steinbach-volkskunst.com/en/>
クリスチャン・ウルブリヒト : <https://www.ulbricht.com/jp/ornamente.html>



シュタインバッハ クリスチャン・ウルブリヒト

写真1



写真2



写真3



《岩手医科大学報編集委員》

| | |
|-------|--------|
| 小川 彰 | 佐藤真結美 |
| 影山 雄太 | 菊池 初子 |
| 松政 正俊 | 工藤 正樹 |
| 齋野 朝幸 | 及川 弘美 |
| 藤本 康之 | 安保 淳一 |
| 白石 博久 | 佐々木 忠司 |
| 成田 欣弥 | 畠山 正充 |
| 遊田由希子 | 藤村 尚子 |
| 佐藤 仁 | 武藤千恵子 |
| 小坂 未来 | 高橋 慶 |
| 藤澤 美穂 | |

編集後記

令和元年もまもなく終わりを迎え、新しい年が始まろうとしています。今年の顔といえば、イチロー選手や渋野日向子選手、そしてラグビー日本代表チームが思い出されます。今回の特集記事でご紹介した「患者サポートセンター」は、新病院正面入口から入ってすぐ左手に位置し、「病院の顔」として様々な支援に取り組んでいます。他施設や患者さんからの期待も大きく、来年もますます活躍されることと思います。さて、本年も大学報をご愛読いただきありがとうございました。来年もより充実した内容でお届けいたしますので、今後ともご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(編集委員 高橋 慶)

岩手医科大学報 第519号

発行年月日 令和元年12月31日
発行 学校法人岩手医科大学
編集委員長 小川 彰
編集 岩手医科大学報編集委員会
事務局 法人事務部 総務課
TEL. 019-651-5111 (内線5452, 5453)
FAX. 019-907-2448
E-mail: kouhou@j.wate-med.ac.jp
印刷 河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp